

GIANT 日本の巨大ロボット群像 ROBOTS

The Core of Japanese Mecha Anime
— 鉄人28号、ガンダム、ロボットアニメの浪漫 —

2024年 7月6日(土) - 9月1日(日)

■開室時間/10:00~18:00(金曜日は19:30まで) ※入場は各30分前まで ■休館日/月曜日(ただし7月15日・8月12日は開館)、8月13日(火)

■主催: 京都府、京都文化博物館、産経新聞社、関西テレビ放送

■後援: 京都府教育委員会、京都市教育委員会、公益社団法人京都府観光連盟、公益社団法人京都市観光協会、KBS 京都、エフエム京都

■協力: AIC、AICライツ、エイケン、エディット、KADOKAWA、キングレコード、クロスメディア、KOBE鉄人PROJECT、シグナル・エムアイ、スタジオぬえ、創通、ダイナミック企画、東映、東映アニメーション、東北新社、トムス・エンタテインメント、博報堂DYミュージック&ピクチャーズ、バンダイナムコフィルムワークス、光プロダクション、ビックウエスト、フライングドッグ、Production I.G.、ボックス、メディアウェイブ、ライツ・イン ■企画: 西日本新聞イベントサービス、びあ ■企画協力: 廣田恵介、タルカス(五十嵐浩司)

○京都展公式サイト <https://www.ktv.jp/event/robots/> ○展覧会公式X @giant_robotsten [Q](https://twitter.com/giant_robotsten) #俺たちの巨大ロボット #私たちの巨大ロボット

©AIC ©AICライツ ©スタジオぬえ ©創通・サンライズ ©永井豪/ダイナミック企画 ©東映 ©光プロダクション/数島重工 ©光プロ/ショウゲート ©1982 BIGWEST

THE
MUSEUM
OF KYOTO

京都文化博物館

〒604-8183 京都市中京区三条高倉

TEL.075-222-0888 www.bunpaku.or.jp

文化力

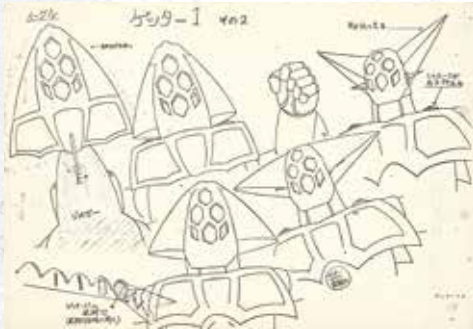
あなたが憧れた巨大ロボットが博物館に出現!

『鉄人28号』(1963年)をロボットアニメの嚆矢として、その後『マジンガーZ』(1972年)の大ヒット、新風を吹き込んだ『機動戦士ガンダム』(1979年)の影響下、現在に至るまで多数のロボットアニメが制作され、魅力的なロボットがデザインされてきました。日本独自ともいえる進化と広がりを見せてきたそのデザインの変遷には、空想上の荒唐無稽なロボットという存在に、映像的な「リアリティ」を与えるために、デザインや設定上での創意工夫が凝らされ、多くのファンを魅了し続けてきました。本展では、近年までのロボットアニメにおけるデザインと映像表現の歴史を、それらの「リアリティ」形成において重要な役割を果たした設定上の「メカニズム」と「大きさ」を軸に検証していきます。その上で「巨大ロボットとは何か？」を観覧者の皆さんとともに考えていきたいと思います。

It has been sixty years since the anime *Tetsujin 28* was released on television in 1963. Over the past decades, Japan has repeatedly produced anime series featuring “mecha” or giant robots. What has attracted us to them? This exhibition offers an opportunity to explore giant robot designs from the past to the present and to delve into the essence of their visual appeal.



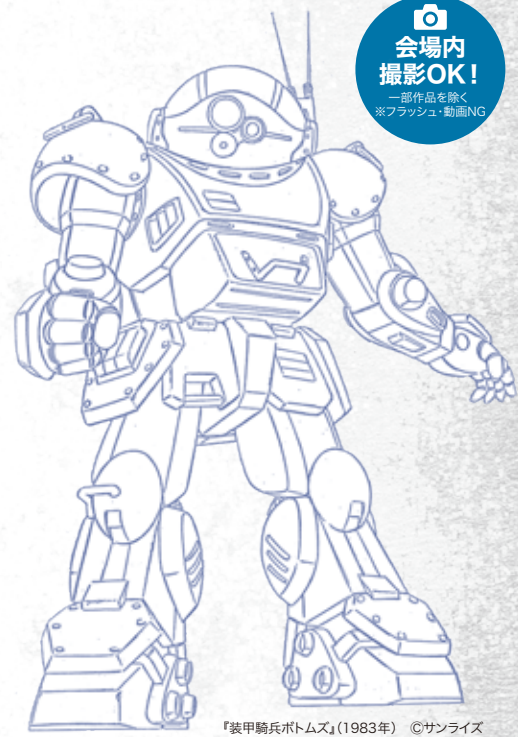
加藤直之・宮武一貴(宇宙の戦士)(1977年) ©スタジオぬえ



これがゲッター1の変形プロセスだ!
『ゲッターロボ』(1974年) ©ダイナミック企画・東映アニメーション



ルパン三世に登場するロボット兵・ラムダ
『ルパン三世 PART2』(1977年) 第155話 さばはばしきルパンよ
原作:モンキー・パンチ ©TMS



会場内
撮影OK!
一部作品を除く
※フラッシュ・動画NG

『装甲騎兵ボトムズ』(1983年) ©サンライズ



ロボットアニメの嚆矢『鉄人28号』
『鉄人28号』(1963年モノクロアニメ) ©光プロダクション・エイケン



本編物語を牽引する劇中スーパーロボットアニメ『ゲキ・ガンガー3』
『機動戦艦ナデシコ』(1996年) ©Production I.G / ナデシコ製作委員会・テレビ東京

■音声ガイド

ご利用料金: 700円(税込)

本展音声ガイドのナレーションは銀河万丈さん、水樹奈々さんが担当します。ぜひ、ご期待ください!



銀河万丈さん
(声優・ナレーター)

TV番組のナレーション、洋画の吹き替えで幅広く活躍。ロボットアニメでは、『機動戦士ガンダム』(ギレン・ザビ役)、『戦国メカザブングル』(ティンブ役)、『装甲騎兵ボトムズ』(ジャン・ポール・ロッテナ役)に出演。



水樹奈々さん
(声優・歌手)

『NARUTO-ナルト-』シリーズ(日向ヒナタ役)、『ONE PIECE』(小紫役)をはじめ、アニメ、吹き替えなど多数の作品の声を担当。歌手としてもライブを精力的に行い、ラジオパーソナリティ、ナレーター等多岐に渡り活躍。

■「ガンダムを歩く」!



(写真は福岡市美術館での展示風景) ©創通・サンライズ



Photo by 産経新聞社

1/1の実物大で床にプリントされたガンダムの展示も。ガンダムの上に乗って、そのサイズをぜひ体感してください。

記念講演会

玩具・プラモから見るロボットアニメ
—マジンガーZからガンダム、そしてファイブスター物語へ—

日時: 7月6日(土) 10:30~12:00
会場: 3階フィルムシアター
講師: 五十嵐浩司(アニメーション研究者、本展ゲストキュレーター)、山口洋三(インディペンデント・キュレーター、本展監修者)
定員: 150名 参加費: 無料 (ただし本展入場券(半券可)の提示が必要)

関連イベント「はじめてのロボットプラモデル講座」

プロ講師によるワークショップ!
プラモ制作に初めて挑戦する人なら、対象年齢に限らず広くお楽しみいただけます。夏休みの自由研究にもピッタリです。
日時: 8月25日(日) ①10:30~12:00 ②14:00~15:30
定員: 各回20組40名(計40組80名)
対象: 小・中学生 ※小学生は要保護者同伴
参加費: 2,500円(税込)

各種イベント詳細・お申込み方法は京都展公式サイトをご参照ください。
※お申込みは、講演会 6月3日(月)~、ワークショップ 7月1日(月)~、いずれも10:00受付開始。

「描く人、安彦和良」展 相互割引

本展覧会入場券(半券可)の提示で「描く人、安彦和良」展(2024年6月8日~9月1日、兵庫県立美術館)の当日券(一般・大学生)を100円引きで購入いただけます。
※1枚につきお一人様1回限り有効。他の割引との併用不可。
※休館日・開館時間等の詳細は、安彦和良展公式サイトをご確認ください。

観覧料(税込)	当日	前売/団体
一般・大学生	1,800円	1,600円
中高生	1,300円	1,100円
小学生	700円	500円

※お得な前売券は2024年7月5日(金)までの販売。(会期中は当日券のみ) ※未就学児は無料(ただし、要保護者同伴)。*学生料金で入場の際には学生証をご提示ください。*※障がい者手帳などをご提示の方と付き添い1名までは無料。*上記料金で2階総合展示と3階フィルムシアターもご覧いただけます(ただし催事により有料の場合があります)。

【主な入場券販売所】

京都文化博物館、公式オンラインチケット、ローソンチケット(Lコード: 53058)、チケットぴあ(Pコード: 686-876)、セブンチケット(セブコード: 104-851)、イープラス、CNプレイガイド、アソビュー、楽天チケットほか

交通案内

- 地下鉄「烏丸御池駅」下車、5番出口から三条通を東へ徒歩約3分
- 阪急「烏丸駅」下車、16番出口から高倉通を北へ徒歩約7分
- 京阪「三条駅」下車、6番出口から三条通を西へ徒歩約15分
- JR・近鉄「京都駅」から地下鉄へ
- 市バス「堺町御池」下車、徒歩約2分

THE MUSEUM OF KYOTO
京都文化博物館
〒604-8183 京都市中京区三条高倉
TEL.075-222-0888 www.bunpaku.or.jp

※本展の予定や内容は、状況により変更となる場合があります。最新情報は展覧会公式サイトなどでご確認ください。

